「政界の奥座敷」大磯

明治時代の大磯

江戸時代の大磯町は東海道の宿場町として栄えました。富士山、三浦半島が望めるなど自然景観に優れ、行楽の地としての魅力をもつ大磯は、明治時代になると、医師であり政治家でもあった松本順が海水浴の効能を広め、明治18年（1885）に、日本で初めての療養を目的とした海水浴場を開設したことで人気を博しました。さらに、明治20年（1887）には東海道線の大磯駅が開業したことで、別荘地として急速に発展しました。

「大磯海水浴富士遠景図」（明治後期）大磯町郷土資料館 所蔵

明治政界の要人等が集う

やがて大磯には、初代内閣総理大臣の伊藤博文をはじめ、明治政界の要人たちが集まり、別荘や邸宅を築いたことから、「政界の奥座敷」と呼ばれるようになり、8人の内閣総理大臣経験者が居を構えました。

初代・5代・7代・10代
伊藤 博文

3代・9代
山縣 有朋

8代・17代
大隈 重信

12代・14代
西園寺 公望

18代
寺内 正毅

19代
原 敬

24代
加藤 高明

45代・48代・49代・
50代・51代
吉田 茂

開園時間　9：00 ～ 16：30（入園無料）
※最終入園は 16：00 まで

休園日　毎週　月曜日
祝日の場合は翌日
年末年始
※詳細は明治記念大磯邸園 HPをご覧ください。

アクセス
JR 東海道本線大磯駅　徒歩 15 分（約 1km）
大磯駅より神奈中バス乗車、「統監道」下車 3 分

現在、整備中のため、駐車場がありませんので、
公共交通機関をご利用ください。

※障害者、車イスの方の車両につきましては来園前
に下記お問い合わせ先まで事前にご相談ください。

※開園時間、入園料等につきましては今後の状況により、
変更となる可能性があります。

お問い合わせ

明治記念大磯邸園インフォメーション
TEL：0463-61-0101　9:00-16:30（休園日除く）
詳しくは明治記念大磯邸園ホームページをご覧ください。
https://www.meijikinen-oiso.jp/
神奈川県中郡大磯町東小磯295ほか

明治記念大磯邸園

Meiji Commemorative Ōiso Residences and Gardens

陸奥宗光別邸跡・旧古河別邸

明治記念大磯邸園について

明治記念大磯邸園は、「明治 150 年」関連施策の一環として、国土交通省が神奈川県及び大磯町と連携し、整備を進めています。

本邸園は、伊藤博文、大隈重信、西園寺公望、陸奥宗光という立憲政治の確立等に重要な役割を果たした人物にゆかりのある邸宅等が集中する希有な場となっています。

これら邸宅や周辺の緑地等を、積層する歴史を今日に伝える佇まい（風致）として一体的に保存・活用し、立憲政治の確立等に関する歴史やその意義を後世に伝えるとともに、湘南の邸園文化の象徴として、文化の発信や、憩いと交流の拠点となる場を創出することとしています。

「邸園」とは、神奈川県が推進している「邸園文化圏再生構想」に由来しています。この構想は、相模湾沿岸地域一帯の歴史的遺産である邸宅や庭園等を公民連携により、新たな文化発信の場や、地域住民と来訪者による多彩な交流の場として保全・活用し、地域の活性化につなげるものであり、邸宅と庭園をあわせて「邸園」と称しています。この構想の事業として、毎年、湘南邸園文化祭が開催されています。

明治記念大磯邸園は、代表的な「邸園」の一つとなっており、本邸園の近隣には、旧吉田茂邸（神奈川県立大磯城山公園内）があるなど、大磯町内には邸園が集積して残されています。

神奈川県立大磯城山公園　旧吉田茂邸地区

湘南邸園文化祭

旧大隈重信別邸・旧古河別邸

旧大隈別邸は、大隈重信が明治 30 年（1897）に大磯に別邸として購入し、増改築した邸宅です。明治 34 年（1901）に古河市兵衛（古河財閥創業者）に売却され、古河別邸や民間企業の迎賓施設として利用されました。後年増改築がなされているものの、明治期の主要な構造部分が残っており、大磯が明治期に別荘地として最も発展した時代の海浜別荘建築が残されています。

大隈重信

古河市兵衛

- **大隈重信別邸**
  明治30年（1897）
  大磯に別邸を購入
  大隈家が代々仕えた肥前佐賀藩主鍋島家別邸の隣地を購入
- **古河別邸**
  明治34年（1901）
  陸奥宗光と懇意にしていた実業家の古河市兵衛が購入
- **昭和23年（1948）**
  古河家創業の民間企業が購入

陸奥宗光別邸跡・旧古河別邸

陸奥別邸は、陸奥宗光が明治 28 年（1895）に病気療養のため大磯に建築した邸宅でした。陸奥の没後、次男 潤吉が養嗣子となった古河家の別邸となりましたが、関東大震災で一部倒壊し、栃木県足尾町（現日光市）に移築されました。現在の邸宅は、古河家 3 代目当主古河虎之助により昭和 5 年（1930）に建築された瀟洒な数寄屋風の海浜別荘建築が残されています。

陸奥宗光

古河虎之助（古河虎之助君伝.1953）

- **陸奥宗光別邸**
  明治27年（1894）
  病気療養のため、大磯に土地を購入
  明治28年（1895）
  茅葺屋根の別邸を建築
- **古河別邸**
  明治37年（1904）
  古河家の養子となった陸奥宗光の次男潤吉が所有
  昭和5年（1930）
  陸奥別邸の配置を踏襲し、数寄屋風の木造平屋建ての別邸を建築
- **昭和31年（1956）**
  古河家創業の民間企業が購入

旧滄浪閣（伊藤博文邸跡・旧李王家別邸）

「滄浪閣」は、初代内閣総理大臣である伊藤博文が明治 29 年（1896）に大磯に建てた別邸を翌年（1897）本邸とした邸宅の呼称です。伊藤の没後は李王家に譲渡され、別邸として使用されましたが、関東大震災により倒壊し、建て直されました。第二次世界大戦後、商業施設として増改築されましたが、今日まで滄浪閣の名が継承され、主要な部屋は李王家別邸の姿が残されています。

（大磯町提供）

伊藤博文

李堤（新装版英親王李堤伝.2001）

- **伊藤博文別邸のち本邸**
  明治28年（1895）
  大磯町西小磯に土地を購入
  明治29年（1896）
  別邸「滄浪閣」が完成
  翌年本邸とする
- **李王家別邸**
  大正10年（1921）
  伊藤家と家族ぐるみで親交のあった李王家が滄浪閣を購入
  大正15年（1926）
  李王家別邸（現存）を建築
- **昭和21年（1946）**
  楢橋渡（当時の法制局長官）が購入
- **昭和26年（1951）**
  民間企業が購入

西園寺公望別邸跡・旧池田成彬邸

西園寺別邸は、西園寺公望が伊藤博文の紹介で、明治 32 年（1899）に大磯に所有した邸宅でした。滄浪閣の隣に位置することから「隣荘」と名づけられたと言われています。現在の邸宅は、西園寺から別邸を譲り受けた池田成彬（大蔵大臣経験者）により昭和7年（1932）に建築された、鉄筋コンクリート造の西洋の生活様式を採用した本格的な洋館建築が残されています。

西園寺公望

池田成彬

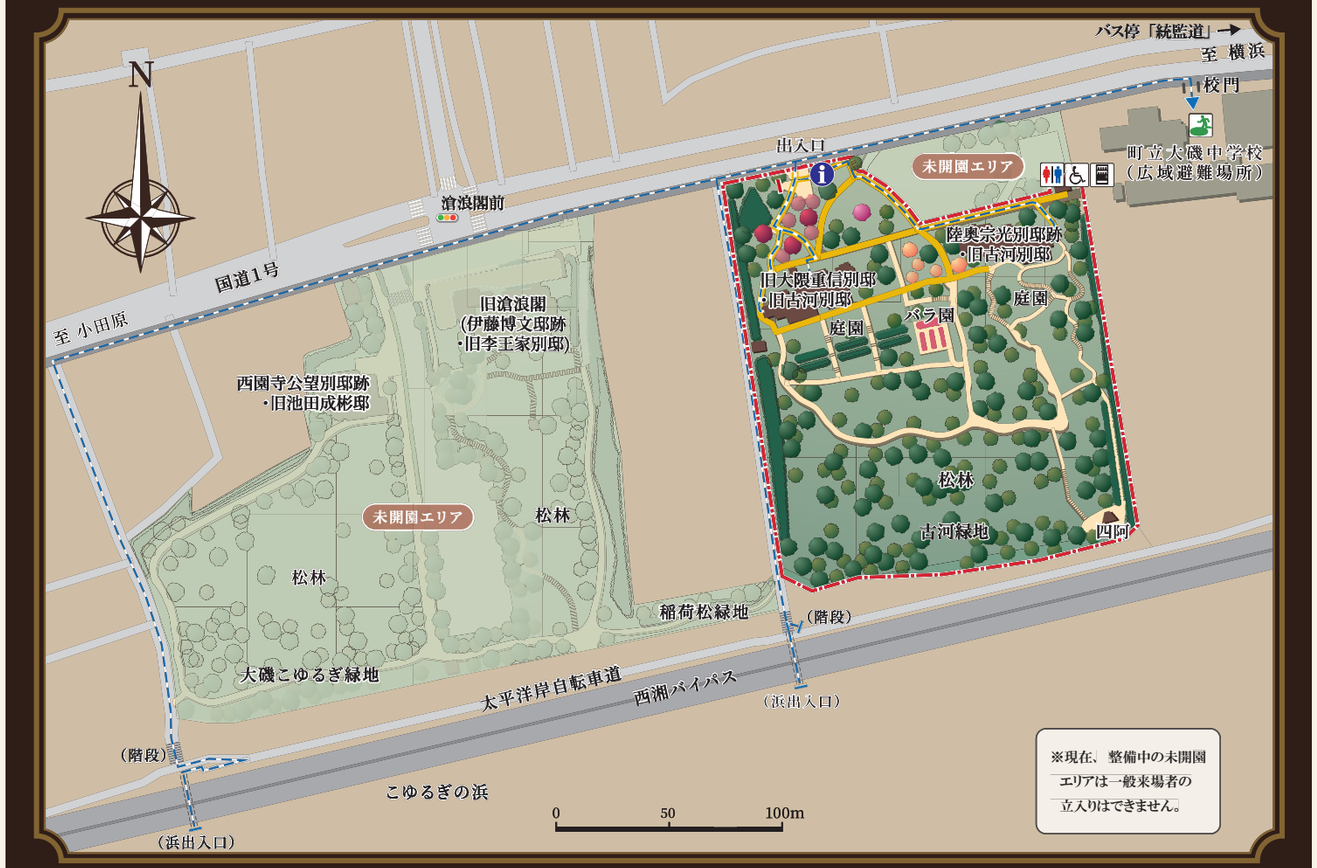
人物写真の出典名が無いものは国立国会図書館所蔵

- **西園寺公望別邸**
  明治32年（1899）
  滄浪閣の西隣に別邸を建築
- **池田成彬別邸のち本邸**
  大正6年（1917）
  西園寺から人を介して隣荘を購入
  昭和7年（1932）
  関東大震災を機に堅牢な鉄筋コンクリート造の洋館を建築
- **昭和27年（1952）**
  池田がかつて重役を務めた民間企業が購入

明治記念大磯邸園MAP

凡　例

- 公開エリア
- インフォメーション
- トイレ
- 自動販売機
- 園路
- バリアフリー園路
- 災害時避難経路
- 邸園案内サイン



西園寺公望別邸「隣荘」
（大磯町郷土資料館所蔵）

伊藤博文邸「滄浪閣」庭園
（大磯町郷土資料館所蔵）

大磯滄浪閣前庭にて
伊藤博文（右）と
大隈重信（左）

大磯別邸の陸奥宗光

松林で憩う陸奥宗光一家と山縣有朋
山縣有朋（右手前）と陸奥宗光（左手前）

積層する歴史を今日に伝える佇まい（風致）

大磯の海や山等の豊かな景観が別荘地として好まれ、伊藤博文ら先人たちも、邸宅からのこゆるぎの浜や富士山の眺めを愛でていたと考えられます。

本邸園には、明治期から昭和初期に至る様々な時代に建てられた和風、和洋折衷、洋風の別荘建築があり、白砂青松の景観を活かした庭園、こゆるぎの浜辺や東海道（国道1号）の松並木等の歴史的景観と一体となって、積層する歴史を今日に伝える佇まい（風致）を遺しており、湘南の邸園文化を象徴する歴史的遺産となっています。

邸宅から眺める庭園

園内の松林は、明治以前からある景色です。邸宅から庭園（近景）、松林（中景）を通して見る海（遠景）への眺望は、別荘地大磯の特徴です。

万葉集にも詠まれたこゆるぎの浜

邸園から歩いて行けるこゆるぎの浜は、古くより「よろぎ（ゆるぎ、こゆるぎ、こよろぎ）の磯」と呼ばれ、万葉集などにも詠まれました。

街道沿いに植えられた松並木

大磯は、東海道の宿場町として栄えました。江戸幕府によって街道沿いに植えられた松並木は、現在、大磯を代表する歴史的景観とされています。

伊藤博文が歌に詠み、愛でたといわれる富士山

伊藤博文は、宴の席で「大磯小磯の景色と問へば沖の鴎に富士の雪」と詠みました。滄浪閣の楼上から見える富士山は絶景だったと言われています。